



色鮮やかな風景再び

昭和初期から30年代の色鮮やかな風景をもう一度。東京都新宿区の落合・中井地域を流れる妙正寺川に、江戸更紗などの反物を架けるイベント「川のギャラリー」が初めて開かれた。染め物職人や

東京・新宿区で反物ギャラリー

学生らが染めたのれんを約50店舗の軒先に飾る試みも初めて行われた。

同地域には昭和30年代まで300軒以上の染色関連業者が集まっており、京都や金沢と並ぶ染め物の三大産地だった。当時は水量の多い妙正寺

染色会社など企画

川や神田川で染め物の水洗いをしており地元の染め物関係者が中心になってそのイメージを再現した。周辺の工房や店舗は関連イベントを開催。制作現場などを公開した広瀬染工場の広瀬雄一さんは「こんなに見学者が集まるとは」と関心の高さに驚いていた。

.....

妙正寺川に架かる色とりどりの反物